

ネギの春先の害虫を防除しましょう



- つくば市内で**タネバエ・タマネギバエ**、**アザミウマ類**が多く発生しています。
- 5月以降は気温が高く、**害虫の多発が懸念**されます。
- ほ場を確認し、**被害初期に適期防除**をしましょう。

| | |
|--|---|
| <p>タネバエ・タマネギバエの被害と特徴</p> | <p>アザミウマ類の被害と特徴</p> |
| <ul style="list-style-type: none"> ◆ 生育が劣り、外葉が枯れている ◆ 苗が引き抜ける ➔ 苗の茎盤部にウジがいる | <ul style="list-style-type: none"> ◆ 葉にかすり状の白い部分がある ◆ かすりに黒い点が多数ある ➔ 葉を紙の上ではたとと幼虫・成虫が落ちる |
| <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="95 922 403 1209"> </div> <div data-bbox="421 922 735 1209"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div data-bbox="95 1209 403 1276"> <p>タネバエ 被害株</p> </div> <div data-bbox="421 1209 735 1276"> <p>タネバエ幼虫</p> </div> </div> | <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="762 922 1070 1209"> </div> <div data-bbox="1088 922 1396 1209"> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 5px;"> <div data-bbox="762 1209 1070 1276"> <p>アザミウマ食害痕</p> </div> <div data-bbox="1088 1209 1396 1276"> <p>ネギアザミウマ成虫</p> </div> </div> |
| <ul style="list-style-type: none"> ○育苗期・定植時：灌注剤等による防除 ○本圃：完熟堆肥の使用，被害株の抜き取り ○生育期防除：登録のある薬剤の散布 | <ul style="list-style-type: none"> ○定植時：灌注剤や粒剤による防除 ○生育期：異なる系統薬剤のローテーション防除（連用は抵抗性が発達） 登録のある薬剤の散布 |
| <p>薬剤散布時にはラベルを良く確認し展着剤を加え，十分な量を散布する。 農薬の使用時期，有効成分の使用回数等に注意！</p> | |
| <p>タネバエ：産卵数500～1000粒 卵から成虫まで25日（20℃）</p> | <p>アザミウマ類：産卵数70粒 卵から成虫まで21日（20℃）</p> |
| <p>高温多湿で多発。 鶏ふんや緑肥すき込み未熟，ネギの被害株のにおいが誘引。</p> | <p>高温乾燥で多発・被害大 (葉が白くなる：成長が遅れる)</p> |

【注意】 1 「2020年4月23日現在の登録内容です」 2 参考資料の作成に当たっては、農薬使用基準の内容について細心の注意をはらっていますが、農薬を使用する方は、必ず、**使用する前にはラベルを見て、対象作物、希釈倍率や使用量、使用回数等を確認し、農薬の誤った使用を行わないようにしてください。**農薬散布時には風向、風速、散布位置やノズルの向き等に注意し、周辺作物に農薬が飛散（ドリフト）しないよう注意して行いましょう。特に、周辺作物が収穫期に近い場合は、栽培者と情報交換することが重要です。また、農薬の安全評価に新たな手法として短期暴露評価が導入されることとなりました。それにとともに、農薬によっては使用できなくなる作物が生じたり、使用方法の変更が行われる場合があります。短期暴露評価により使用方法が変更された農薬は、農薬容器のラベルに記載された使用方法ではなく、変更後の使用方法が記載されたメーカーのチラシなど、最新の情報に従って使用して下さい。最新の情報は、農薬の販売店や茨城県病害虫防除所のホームページ等で確認して下さい。